

Area

周辺店舗開発



「点」から「面」へ — 地域トータルとしての魅力づくり

「点」から「面」へ

J.フロント リテイリングは、店舗そのものの魅力化とともに、店舗周辺に高感度なショップを展開し、地区全体としての活性化をはかっています。

この取り組みは、1988年に大丸神戸店で始まりました。当時、神戸地区の交通やビジネスの中心は三宮にシフトが進んだため、大丸神戸店のある元町は相対的に活力を失いつつあり、わざわざ来ていただくための魅力づくりが急務となっていたのです。同店の周辺店舗開発はまず自社ビルからスタートしましたが、それだけでは地域の活性化には限界があります。そのため、居留地内の他のビルにも大丸が窓口となってブランドショップの誘致を積極的に進め、地域全体としての集客力の強化をはかってきました。

2013年4月には、これまで2階特選フロアにあった「エルメス」を神戸店に隣接する旧

居留地38番館に移設。面積を従来の1.5倍に拡大しメゾネット式のショップにするとともに、新たに「ホーム・コレクション」を加え国内有数の品揃えを誇るフラッグシップショップとしてリニューアルオープンしました。旧居留地38番館、`ブロック30、など、歴史ある近代洋風建築が醸し出す、懐かしい、けれど新しい表情を生かしながら多彩な個性を持つ店舗展開は今では65ブランド&ショップ(2013年5月現在)に至り、町の歴史に新たな時代の息吹を吹き込んでいます。

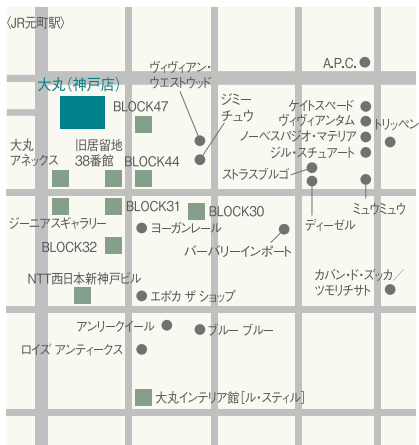
そして、こうしたノウハウは、他の店舗にも応用が進んでいます。

大丸心齋橋店は、心齋橋筋商店街とともに地域の賑わいを創出してきましたが、2003年頃から隣接する店舗の商売を取り巻く環境変化や家主の世代交代などが進む中で、事業撤退を選択する老舗も現れました。このままでは、商店街の活気が失われるどころか、

放置すればファッショナブルな心齋橋のイメージも損なわれてしまう、そうした危機感から、心齋橋店においても神戸店の手法を取り入れた周辺店舗開発に着手しました。店内の売場展開では一定の制約を受けるショップデザイン、環境も路面なら思い切ったことができることから、話題性のある店舗が次々と集まり、現在では23ブランド&ショップ(2013年5月現在)が展開されています。

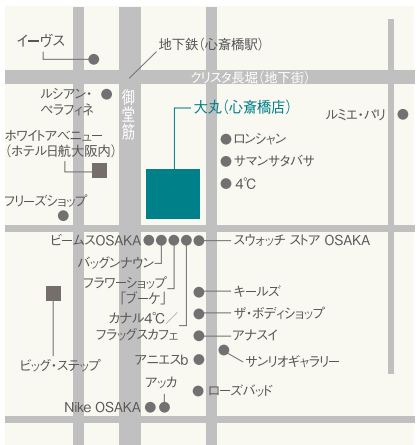
また大丸京都店でも、商業集積度の高い四条河原町に負けない、四条烏丸地区の活性化を目指し、2004年にオープンした「ルイ・ヴィトン ストア」を1号店として、その後も徐々に周辺店舗開発を進め、現在ではファッションからエステティックサロンに至るまで11ブランド&ショップ(2013年5月現在)を展開し、地区トータルとしての魅力化に取り組んでいます。

大丸神戸店周辺店舗 ■ 複数のブランド店舗が入居するビル



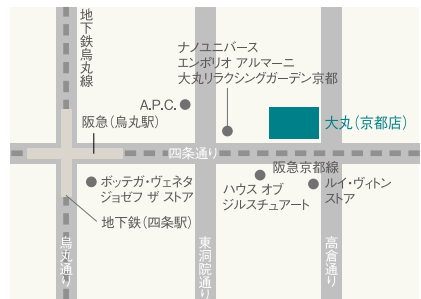
ジーニアスギャラリー

大丸心齋橋店周辺店舗



フリーズショップ

大丸京都店周辺店舗



エンポリオ アルマーニ